

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二三）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上
村
雅
洋

凡 例

三三 御用番留帳（寛文七年正月朔日～五月二十九日）

凡 例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐時翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。

一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、㊦・㊧のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、□□□□を
もってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙) (端書) (異筆) (付箋) などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(経済学部教授)が行なった。

三三 御用番留帳

(表紙)
「寛文七年

未ノ正月より五月迄之

留帳

正月朔日 当月ハ拙者当番也

夜之八時分ニおき候て支度仕、夜明候と追付登城仕候、尤のしめ長袴着申候

一五前ニ殿様より御年頭之御使者曾根孫大夫御前へ罷出、其以後左様之御使者鈴木四郎兵衛、同御奥様より上野権兵衛御前へ罷出、其後帶刀、拙者、平右衛門、五郎左衛門、一学、佐五右衛門、勘八、御座之間ニ而太刀目録ニ而御礼申上、御盃頂戴仕候、津田治兵衛、志賀弥三左衛門奏者也
一其以後御広間へ出御被遊、如例諸士之御礼被為請候、昼前ニ相済申、拙者共昼時分ニ帰宿仕候

同二日 昼之内ハ長閑也、八時分より曇、暮合より雨

今朝五前ニのしめ長袴ニて致登城候、五過ニ御広間へ出御被遊、如例了二、十休太刀目録ニ而御礼申上候、其外隠居衆、いしや衆、新宮田辺与力御礼申上、四時分ニ被為入候
一拙者儀四過ニ致帰宿、それより支度仕、昼前ニ宿罷出坂田へ致参詣、それより養珠寺へまいり、それより雲蓋院へ参候、先大師堂へ参詣仕、それより雲蓋院へ参候処、盃御出ししハし語候而罷立候、戻りニ加納五郎左、長谷川勘八方、安藤崇悦、山名八左、布施佐五右へ礼かへしニ参、七過ニ帰宿仕候

一坂田へ如例銀子壱枚持参、養珠寺、雲蓋院へ如例同断、大師堂へも銀子壱枚献上仕候も、於和歌六ヶ坊へ以使者金子壱歩つ、為祝儀遣申候、神主主馬へハ如例代物壱貫文遣し候、右六ヶ坊へハ尤当年始而也

同三日 昼過迄少つ、雨

今朝五過ニのしめ長袴ニて致登城候、四前ニ御表へ出御被遊、御城代町奉行竹本丹後与力致御目見候、拙者共四過ニ帰宿仕候

一内々今日吹上屋敷へ参、馬之乗初仕筈ニ候へとも、昨晚より雨ふり候故延引、八時分ニ雨止申候ニ付、則上屋敷之庭ニ

而態乗初仕候、権五郎ニも乗初致さセ候

一今日権五郎部屋へ参、盃事いたし候、梅松も同道也

一今日帯刀方私宅へ被参候、太刀目録持参

一今日岡野四郎太郎、始而首尾能相公様へ致御目見候

一相公様未御服之内、殊当月ハ瑶林院様御消月ニ而被成御座候との義ニ而、今晚之御謡初御延被遊候

一年頭之御祝儀為可申上、江戸へ原田市十、加納平次右迄御樽肴差上申候、為使者矢部伊左衛門今日爰元出し申候

同四日

今朝五過ニのしめニ半袴ニ而致登城候、四時分ニ御広間へ出御被遊、如例町人共御礼申上候、拙者共四過ニ帰宿仕候
一昼前ニ我等儀帯刀宇右衛門所へ参、それら久野丹州留守へ参、それら吹上下屋敷ニ而馬之乗初いたし候、権五郎ニものセ申候、宇右衛門、源藏、真鍋五郎右被参緩々と語、七時分ニ帰宿仕候、其節渋谷角右方へ参候

同五日

今朝五過ニ登城仕候、頓而首尾能致御目見、四過ニ帰宿仕候
一昼時分ニ宿罷出、伊達了念、水野平右、小笠原与左、菅沼

半兵、寿光院へ参、それら宇治屋敷にて緩々と祝候而、それら渡部若州留守、同一学方へ寄候而、七過ニ帰宿

同六日

今朝五時分ニ登城仕候、頓而致御目見しハし御前ニ罷有候
一五半時分ニ御対面所へ被為成、雲蓋院、大智寺、養珠寺之御礼被為請、其以後和歌五ヶ坊衆御礼申上、それら御広間へ被為成、是又例之通寺社衆之御礼被為請候、拙者共四半時分ニ帰宿仕候

一今昼過ニ栄雲私宅へ呼候而、路地之義なと頼申候、其節岡野平太も見廻被申、ぞうに吸物なと出し盃事仕候、今日らた、ミの表かへをもいたし初候

同七日 日暮候而終夜雨

今朝五過ニ致登城、頓而御前へ被召出首尾能御目見仕候、其以後御表へ出御被遊、何れも御目見御坐候而、御対面所ニ而鷺森御坊輪番法輪寺被致御目見候、拙者共四半時分ニ帰宿致候

同八日

今日者御用も無御座候ニ付、登城不仕候
一昼時分ニ奉行衆鳥居五右御用御座候而、私宅へ被参候

一 昼過ニ榮雲呼候て、数寄屋玄関口之様子談合申候

一 八前ニ菅沼半兵御用御座候而、私宅へ被参候

一 八過ニ福岡太郎八方へ見廻申候、去年権五郎罷上候砌

度々見廻被申候礼ニ参候處、幸とてふるまいニ逢申候、掛

物沢庵之歌、花入宗旦竹ノ筒、かま常味作、おとごせ之成

ニ似候、茶入瀬戸丸形口しまる大ぶり也、茶碗瀬戸、茶杓

遠州、水指瀬戸せいたかし、香箱織部時代之物、料理汁な

ニくつし、に物くしこ、ごぼう、あつ物、干大こんニ海た

け、織部焼四角皿ニ入、鯛之切やき物、小鳥やきてとうの

物、吸物ニぞうに出ル、年首心、肴むし貝、はさみ肴、鰹

ぶし、茶くわし、くづもち、水くり、とうふのうはやきて、

夜ノ五半時分ニ帰宿

同九日

今朝四時分ニ登城仕候、昼前ニ高野出家衆今井江庵など御

目見御坐候而、拙者とも昼時分ニ帰宿仕候

一 八前ニ宇治屋敷へ参、七過ニ帰宿

一 安藤宗悦旧冬より煩被申、今日いしやも替候ニ付、日くれ候

て見廻、五前ニ帰宿

同十日

今朝五時分ニ相公様要行寺へ御参詣被遊候、是ハ来廿四日

之御法事、今日より始り候ニ付而也、拙者式も五前より罷出、

御帰以後帰宿仕候

同十一日

今朝五時分ニ寄合場へ罷出、それより直ニ登城可仕と存候へ

共、何も御用無之、寄合はやく障明候故、同名勘三郎正木

五郎右衛門所へ当年いまた不参候ニ付、先寄先帰宿仕、四

過ニ致登城候

一 相州様より年始之為御使者佃文左衛門と申仁被差越、四過ニ

登城御振廻被下、其以後御対面被遊御盃被下御返事被仰聞、

昼時分ニ退出也

一 其以後御具足之御祝御座候而、御座之間へ拙者共被召出、

其上長ゆるり之間にて御のし御酒致頂戴、八前ニ帰宿仕候

同十二日 夜中少雪

御用も無御座候ニ付、今日ハ拙者共登城不仕候

一 昼時分ニ岡野平太所へ先日四郎太郎致御目見候、祝儀年頭

旁ニ参、それより崇悦へ気色見廻ニ参候而帰宿

一 伊丹新六馬、今日ひか被参、見被申候

同十三日

今日も御用無御座候故、拙者共登城不仕候、尾州様御使者御座候由、併輕キ御使者ニ而御対面無御座候由

一昼時分ニ宿罷出、江間与右所へ参、それら宇治屋敷へ参、それら斎藤源藏方、真鍋五郎右、同名喜兵衛所へ参、吹上下屋敷へ寄、同名源右衛門所へも寄、それら松平三郎兵へ参、八半時分ニ帰宿

同十四日 今晚節分

今日も御用無御座候ニ付、拙者共登城不仕候、昼過ニ安藤崇悦気色見廻ニ参、帰宿

一今日雲蓋院、和歌五ヶ坊衆、あたご円じゆ院など御同道ニ而坂田了法寺へ御越、法事御修行、扱又坂田村百姓不残此度改宗仕候段、於仏前御披露、其上頭立候百姓五拾人斗御振廻候由、右御法事旁之様子ハ兼而委不承候、内々年明候而とく御出有度思召候へ共、御持病しかと無之ニ付御延引候、今日天氣次第御出可有様ニ兼而承候故、佐谷平左衛門遣置ぞうに吸物出させ候、供之者共へも右之振廻申付させ、扱又為使秋田伊右衛門指遣し菓子一種進之、和歌へ御帰以後今日之御礼為使者大多和治右衛門差進候、五ヶ坊衆円じゆ院へも礼使指越候

同十五日 七前も少つ、雨、終夜雨

今朝五過ニ登城仕、如例於御座之間致御目見候、其以後御表へ出御被遊、何れも御目見御座候而四過ニ帰宿仕候、如例拙者共ふくさきる物ニ上下着申候

一殿様当月七日御登城被遊、年頭之御礼首尾能被仰上、御帰以後弥御機嫌能被成御座之旨、今晚夜ニ入江戸に書状到来

同十六日 終日曇、晚方小雨

今朝四時分ニ登城仕、昨晚江戸に申来候御祝儀申上候、如例御座之間へ被召出、しハし御前ニ罷有候、其以後御表へ出御被遊、御礼衆ニ御対面所ニ而御対面被遊候

一拙者義、昼時分ニ御城に直ニ岡野四郎太郎煩見廻ニ参、それら崇悦へ気色見廻ニ参、帰宿

一今日ハ如例子共数入ニ参候

同十七日 夜半過ニ二度地震

今朝和歌へ御代参安藤帯刀相勤申候、尤もほし大紋着申候、帯刀八日ノ出時分ニ宿罷出候、拙者儀少間を置宿罷出参詣仕候、大師堂へも致参詣候、長袴着申候、それら雲蓋院へ寄申、先日坂田へ御越候礼申達、則帰宿可仕と致候処ニ是非共斎を給参候様ニと御申候故、五郎左、了二、佐五右、

其外番頭衆、奉行衆、御用人衆など寄合齋給候而、四過ニ
帰宿仕候、帰ニ禅林寺へ年頭之礼ニ立寄申候

同十八日

御用も無御座候ニ付、今日ハ拙者共登城不仕候

同十九日

今朝四時分ニ致登城候、然所ニ江戸より飛脚到来、久松様去
十一日於御中屋敷始而御さかやき被遊候、御名をも大七様
と御かへ被成候由申来候、則右御祝儀御用人衆迄申達、別
ニ御用も無御坐ニ付、追付帯刀拙者退出仕候、五郎左衛門
ハ今日ハ不罷出候

一七時分ニ崇悦へ気色見廻候而、追付帰宿

同廿日

相公様今朝六半時分ニ御出被為成、和歌御靈屋へ御参詣被
遊候、御装束御ひた、れ也、拙者共明ヶ六時分ニ宿罷出、
御先へ致伺公候

一大殿様御代参安藤帯刀相勤申候、但相公様和合院へ被為入
候而奉伺候処ニ、御先へ相勤候様ニとの御意ニ而、其通ニ
御代参相勤申候、拙者儀ろうかい之御役ニ而御供相勤申候、
尤何れも大もん着申候

一四前ニ和歌より御帰被為成候、拙者共も御跡ニ付罷帰早々支
度仕、四過ニ登城仕候、追付御前へ被召出、其以後如例大
殿様御祝致頂戴、其後追付相公様御祝頂戴仕、昼前ニ帰宿
仕候、宇右、与左、其外いつも寄合候衆私宅へ被参、自分
之祝仕候

同廿一日 時々雨

相公様昨日之御時分養珠寺へ御参詣被遊、それより妹背山
へ御参詣被為成御帰ニ、又養珠寺へ被為入御上下ニ被為召
替、四過ニ御帰被為成候、御装束昨日之通也

一大殿様今日之御代参拙者相勤申候、養珠寺ニ而奉伺候処ニ
御先へ相勤候様ニと御意ニ而其通ニ相勤申候、尤大もん着
申候、帯刀ハろうかい之御役相勤申候

同廿二日

相公様今朝六半過ニ要行寺へ御参詣被遊、御自筆ニ被遊候
御経一卷御献上、その上御はいぜん不残被遊、扨御焼香被
遊候、此間良久御法事也、扨御石塔へ御参詣被遊、五半過
ニ御帰被為成候、今日ハ今度之千部御供養之御緒願故、御
ひた、れ被為召候、拙者式も大もん着相勤申候

(二三日は原文欠)
同廿四日

相公様今朝日出前ニ大智寺へ御参詣被遊、それゝ要行寺へ御参詣被為成、御はいせん被遊候、左京様為御名代鈴木四郎兵衛御はいせん相勤申候、扱御法事過時分ニ御焼香被遊候、御姫様方左京様之御名代も御跡ニ御焼香相勤申候

一御法事過候而御石塔へ御参詣被遊、それゝ御帰被為成候、今朝大智寺へ、尤御ひた、れニて御参詣被遊、要行寺へも其御装束ニて直ニ御参詣被為成候

一今朝大智寺、要行寺へ大殿様御代参帶刀相勤申候、大智寺ニて之御拝、要行寺ニて之御焼香、同御石塔ニ而之御焼香も宰相様以御意御先へ帶刀相勤申候、尤大もん着申候、拙者義も大もんニ而大智寺、要行寺へ之御供相勤申候、要行寺ゝ御帰之以後御跡ニ而、帶刀拙者其外何れも御いはい奉拝候、今朝拙者共未明ニ大智寺へ罷出、五半時分ニ帰宿仕候

一相州様ゝ御使者渋谷左太郎、松平左兵衛様ゝ御使者小笠原彦左衛門、今昼過ニ要行寺へ罷出御焼香相勤候由、何れも御かうてん御献上之由、右而御使者要行寺ゝ御城へ罷出候様ニと被仰出、登城之上御対面被遊候、拙者儀其前ニ御城へ罷上り、御法事首尾能相濟候、御祝義申上右御使者登城

之節迄罷有致御目見、七前ニ帰宿仕候

一今日要行寺へ拙者为香奠銀子貳枚、女共ゝ銀壹枚差上申候、使石原六兵衛、但是ハ女共ゝ之使者也、帶刀方ゝも同前之由

一七前ニ要行寺へ女共致参詣、御石塔をも奉拝罷帰候、花桶ニ入持参指上申候、宇右衛門、与左衛門、要行寺ニ罷有、万事肝煎申候由

同廿五日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四時分ニ直ニ五郎左致同道登城仕候、右ハ菅沼半兵ニ逢申、五郎左ニ申出させ候ハ、拙者唯今之屋敷之義数多屋敷御そへ被下、似合ニ作事をも仕、先年大殿様御腰被為懸候、其以後何とそ宰相様にも御腰被為懸候様ニと奉願候へ共、御在国之御時分ハ大殿様御供仕、拙者義江戸ニ罷有候ニ付、在之外数年延引仕候、最早家も古ク罷成、其上何之風様も無御座所へ被為成被下候様ニと可申上様も無御座候、然共大殿様ニも被為成候御儀ニ御座候処、不申上も却而如何とも奉存、此段難弁御座候、か様ニ内々奉願段、各迄とく申達度存候へ共、昨日迄ハ不得申上候、もはや御法事首尾能相濟申候間、今日貴殿へ此段御

物語申候、御宿所へ参可申達候へ共、左候へハ急度御成を

ニ入我等ニ申聞候

奉望様ニ御座候ニ付、態延引いたし候御儀ニ而御物語申候

同廿六日

旨申候処ニ、半六委細得其意候由ニ而追付達御耳候由、則

今朝四時分ニ致登城、昼前ニ帰宿仕候

以半兵衛被仰出候ハ、半兵衛迄申候通被為聞召候、天氣を

一今朝坂田へ鈴木弥五左衛門遣し、古仏拝見候而参候様ニ、

も御覽被合、頓而御成可被成候、御日限ハ重而可被仰出由

又か様之仏見出し候など、沙汰有之候ハ、拝ミ可申など、

御意之旨半兵衛申聞候故、か様ニ早速仰出之段過分至極奉

て、人余多参義も有之へく候、左様ニ無之様ニ利正坊被相

存候旨、半兵迄申上候処ニ、追付御前へ被召出、内々家を

心得候様ニ、伊右衛門も左様可心得旨申遣候

も御覽被成度被為思召候処ニ、大殿様ニも被為成候由ニ候

一雲蓋院へ為使者岡七郎兵衛差越候、右坂田ニ而古仏見出し

間、頓而可被遊御成候、御日限ハ追而可被仰出由御直ニも

候様子、拙者ハ昨晚夜ニ入承候、自然人余多拝ミニも参候

被仰聞、重疊過分忝仕合ニ而退出仕候、直ニ半兵所へ参右

へハ、如何と存候旨申越候へハ、いかニも尤候、利正坊へ

之御礼申置、帰宿仕候

其段御申付可有由、扱又右之御仏之義一段目出度思召候由

一今朝夜明ニ宿罷出蓮心寺へ致参詣、追付帰宿仕、扱右之通

御申越候

寄合場へ罷出候

同廿七日

一昨廿四日之朝、坂田了法寺番神堂縁之下ニ古仏十二躰箱ニ

今朝四時分ニ登城仕、葛西藺右衛門、吉田才右衛門弓能射

入有之と所之者申候を利正坊聞付被申取出し候、則雲蓋院

申候ニ付、御慰ニも節々御覽被遊候様ニと右兩人を宰相様

へ持参候而見セ被申候得共、何れ之仏ともしかとしれ不申

へ被進候、此旨右兩人ニ拙者申渡候、其以後御前へ拙者共

候由、然共一段目出度候間、こうぎやをもとりそなへ置候

被召出、昼前ニ帰宿仕候

様ニと利正坊ニ御申付候由、其段廿四日之晩秋田伊右衛門、

一昼時分ニ宰相様、安藤、崇悦宿所へ被為成氣分御覽被遊候

大多和治右衛門ニ申候由、然所ニ治右衛門致失念、今晚夜

由

一拙者義今晚夜ニ入、崇悦へ見廻申候

同廿八日

伏見様より年頭御祝儀為御使者小川隼人と申仁被参候ニ付、今朝五時分ニ拙者共致登城、頓而御前へ拙者共被召出御目見仕候、それより御表へ出御被遊、何れも御目見御座候而被為入候

一四時分ニ右之御使者登城、御対面所ニ而被遊御対面候、伏見様より之御太刀目録菅沼半兵衛披露仕候、曇花院様より為御使者西池主殿参候、後藤甚太郎披露仕候、右御振廻相濟、其以後又御対面被成御盃被下御返事被仰聞、昼前ニ退出也、拙者共迄長袴着申候

同廿九日 時々少つ、雪

御用も無御座、其上御成前ニ而御座候故、拙者儀今日者登城不仕候

同晦日

拙者義今日も登城不仕候

二月朔日 当月ハ帶刀当番也

今朝五時分ニ登城仕、頓而御座之間ニ而首尾能致御目見候、

其以後御表へ出御被遊、諸士御目見御座候而、四過ニ帰宿仕候

一今度之御法事首尾能相濟候、為御悦今朝養珠寺良円庵御振廻被成候、拙者ともハ御ふるまい不相濟以前ニ退出仕候
一来五日ニ私宅へ可被為成との思召ニ御座候間、左様可相心得旨、今晚八過ニ菅沼半兵衛切紙被差越候ニ付、則致登城半兵衛御札之段申達、帰宿仕候

同二日

相公様去年以後今日始而和歌御宮へ、今朝五時分ニ御ひた、れにて御参詣被遊候、御帰ニ大師堂へも御参被為成、四時分ニ御城へ被為入候、其以後御宮御か、ミ雲蓋院持参被申登城之由、拙者などハ御城へハ不罷出候、和歌へハ帶刀拙者大もん着御供相勤申候、ろうかい之御役帶刀相勤申候

一右御供相勤、和歌より直ニ拙者儀坂田へ参詣仕、昼時分ニ帰宿、夜ニ入崇悦気色見廻申候

同三日

先日公方様御拳ニ而御取セ被為成候御鷹之雁、大殿様御拝領被遊候、御すそわけ宰相様へ被進候を今朝御ひらき御頂

戴被遊候、就夫奥之長ゆるり之間へ出御被遊、何れも御前ニ而御いたし返被成御酒被下、帶刀拙者兩人ニハ御盃被下候、当正月ハ御謡初も相延、今朝始而御謡初心ニ御はやし被仰付候、弓八幡、東北、養老ノ切、拙者共如例のしめ半上下ニ而今朝五時分ニ致登城、四過ニ帰宿仕候

一右之通故、今朝之寄合相延申候

一我等年筮江戸より李梅溪認候而今日参着

同四日 時々少々雪

宰相様今朝始而御鷹野ニ被為成、夜ノ五時分ニ御城へ被為入候、其以後拙者儀登城仕、明日私宅へ可被為成との義冥加至極奉存之旨、中川七左へ申達、則帰宿仕候

一昨日之寄合相延、今朝何れも寄合被申候得共、拙者儀ハ不罷出候

同五日 昼時分より雪ふる、少つもる

今朝六半時分ニ為御迎拙者儀致登城、中川七左ニ逢申、御機嫌次第何時ニても被為成候様ニ御申上可給由申達、則帰宿仕候

一相公様五時分ニ私宅へ被為成候、権五郎儀一ノ橋前迄罷出御目見仕候、拙者義路地之外迄罷出、それより御先ニ立、数

寄屋前ニつくばい罷有候、扨数寄屋へ被為入御膳御茶被召上、それより書院へ御出被為成御膳被召上、緩々と被為成御座候、拙者儀色々致拝領候、女共権五郎娘共迄銘々ニ有之拝領仕、種々過分忝仕合共也、扨八時分ニ御城へ被為入候、拙者儀則路地之外迄御先へ罷出御札申上、直ニ御跡ニ付登城仕御札申上候、権五郎義一ノ橋前迄罷出候を直ニ召連罷上り、父子同事ニ御札申上帰宿仕候、それより何れも相残り被申候衆寄合、大御酒給祝申、七過ニ何れも帰被申候

同六日

今朝五時分ニ菅沼半兵、渋谷角右、伊達了念へ参候、様子ハ昨日相公様私宅へ被為成、種々過分忝仕合共可申上様無御座候、昨日度々御直談ニ申候得共、弥御序之刻可然様ニ御取成頼入候、御自分ニも頃日節々御見廻、昨日も万事御取持忝由、半兵へハ直ニ申談候、其外ニてハ申置罷通候
一直ニ御城へ罷上り、今朝御機嫌能御膳も御快被召上候哉と御用人衆ニ伺申候、其段達御耳、頓而御前へ被召出候帶刀も御用御坐候而登城仕候故、同前ニ被召出候、昨日被為成候義被仰出、今朝半兵衛所迄御札ニ参候儀も被仰出、重畳過分忝仕合ニ而退出仕候

同七日

相公様今朝四時分ニ御城外へ御出被為成候由、今日者御用も無御座候ニ付、拙者共登城不仕候

一昼時分ニ拙者義吹上下屋敷へ参、もとリニ崇悦気色見廻ニ寄候て、七過ニ帰宿

同八日

相公様今朝御鷹野へ出御被遊、御物数も御座候而御機嫌之由、拙者共今日も登城不仕候

一相公様今度私宅へ被為成候義、冥加至極奉存、翌日之御祝義心として菅沼半兵、渋谷角右、其外御用達衆ト齋など、今晚書院ニ而振廻申候、役者をも呼はやし申付候、三輪、松風、海士、其外一丁鼓なとうたせ、緩々と酒もりにて暮合ニ何れも退出也、跡ニ残り候衆、勝手衆など、又居間にて酒もりいたし、夜之五時分ニ退出也、古も数寄屋へ被為成候御跡にて何れをも茶之湯にて振廻祝申候得共、今度ハ相公様江戸御発駕も近々にて、御用多何れも障入申候間、願ハ一度ニ書院にて振廻候様ニと半兵など被申ニ付、右之通也

同九日

終日小雨

相公様今日者何方へも御出不被為成、禪林寺之につしゆつ御聴聞被遊候、拙者共も昼時分ニ致登城、八時分ニ帰宿仕候

同十日 終日小雨

松江辺ニ通り鶴廿七八下り候由、今朝相公様被為成、御鷹之し、当り不申候得共、先御あわセ御覧被成候処ニ取不申候由、雁鴨など御取セ被成、七時分ニ御城へ被為入候由、拙者共今日者登城不仕候

一今朝帶刀方五郎左殿、了二老、十休老、其外之衆、私宅ニ而振廻申候、是ハ今度相公様私宅へ被為成候ニ付而、一昨日之通也、今朝ハ役者をハ致無用、舞之者斗呼候てまわセ申候、茶をも一昨日之通書院にてたて申候、四過ニ何れも帰被申候

一安藤崇悦気色色々養生候へ共、本復無之今日被致死去候、今朝之振廻ハ内々今晚ニと存候へ共、明朝寄合ニ候故今朝ニ仕候処、右振廻ニも指合不申重々首尾能仕廻申候

同十一日 朝四過迄小雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候、五郎左衛門ハ崇悦取置候、在郷へ昨日も参候故、今朝ハ不罷出候

一崇悦吊東門跡頼入候ニ付、安藤忠兵衛、同与右衛門、京都へ罷上度と願申由拙者共迄申候ニ付、其段昨日菅沼半兵迄小笠原与左衛門を以物語仕候、就夫今昼時分ニ致登城半兵ニ逢申候処ニ、右兩人共ニ京都へ差上セ候様ニと被仰出之旨半兵被申聞候ニ付、則帰宿仕、右之段加納五郎左衛門方迄申越候

同十二日 終日風吹、晩方少雪

相公様今朝早天ニ御鷹野ニ被為成候ニ付、拙者義登城不仕候、昼時分ニ吹上下屋敷へ参、七過ニ帰宿仕候

一拙者儀明日鷹場へ罷越度奉存候、御暇之儀岡野平大夫頼候処ニ、中川七左を以申上候へハ、早々参緩々と罷有候様ニと御暇被下之旨、日暮候而御鷹野も御帰之上、平大夫申聞候ニ付、則致登城七左迄御礼申上、帰宿仕候

一今日ハ安藤崇悦三日ニ相当、爰元之寺ニ而法事有之由、明日安藤忠兵衛、同与右衛門、京都へ同道にて罷上セ、就夫今朝崇悦寺へ為焼香佐谷平左衛門を以、香奠銀子式枚遣し候

同十三日

今朝七時分ニ宿罷出、鷹場へ参候

同十四日 七時分ち夜中雨
昨今ニ鴨ひとり二ひとり、うつら三、さしば二居ニ而取也、夜ニ入、六半過ニ帰宿仕候

同十五日 昼時分ち小雨

今朝五時分ニ登城仕、則御用人衆ニ逢申、今度拙者儀鷹場へ之御暇被下過分ニ奉存候、夜前帰宿仕候旨申達、鷹之鴨一つ指上申候、但ひとり

一其以後御前へ被召出、鷹之鳥差上候義迄被仰出仕合罷立候、其以後御表へ出御被遊何れも御目見御坐候、近日江戸御発駕被遊候、其内もはや御礼日も無之候間、今日者御対面所ニ而銘々ニ罷出、致御目見候様ニと被仰出、其通ニいづれも御目見御座候

一其後則御対面所ニ而御鷹之菱喰一つ宛、帶刀拙者拝領仕、御前罷立候

一今日吉日故、菅沼半兵衛所へ御門出被遊候ニ付、直ニ御出被為成候、半兵衛所ち北嶋之御茶屋へ被為成候由

一拙者共御跡ニ残り御用人部屋へ参、渋谷角右へ右御鷹之菱喰拝領仕候、御礼申達退出仕候

一今晚有馬清兵方へ権五郎召連振廻ニ参候、八時分ニ参、夜

ノ四前ニ帰宿

同十六日

今朝四時分ニ登場仕候処ニ、頓而御前へ被召出、従大殿様御はいたか被進、御満足被成候由被仰聞候、昨日者天氣も能御門出被遊目出度奉存之旨申上罷立候、帯刀ハ其節未罷出候

一其以後御対面所へ御出被為成、高野出家衆御目見御座候、其節帯刀も罷出候

一松江辺ニ又通り鶴十斗下り候由

同十七日 朝少雨、夜ニ入候ても小雨

相公様今朝五前ニ雲蓋院へ被為成、それより御社参被遊、又雲蓋院へ被為入候、今日ハ雲蓋院御膳上ケ被申候、如例時服雲蓋院へ被遣候、御供衆中何れも例之通ふるまい被申候

一折節山門衆雲蓋院へ身廻被申候ニ付、御膳過候而論儀御聴聞被遊、昼時分ニ御帰被為成候、拙者共今朝日出時分ニ雲蓋院へ参、御跡ヲ帰宿仕候

同十八日

相公様今朝御鷹野ニ御出被為成、今晚ハ直ニ北嶋之御茶屋

ニ御一宿被遊候

一今晚岡野平太方へ権五郎召連振廻ニ参候、八時分ニまいり、夜ノ五前ニ帰宿

同十九日

今晚北嶋之於御茶屋伊達了念御膳上ケ申候由、夜ノ五時分ニ御城へ被為入候、就夫昨今ハ拙者とも登城不仕候

同廿日 七時分ハ夜中雨

相公様今朝五前ニ和歌御靈屋へ御参詣被遊、四時分ニ御城へ被為入候、拙者義今朝六半時分ニ御先へ参、扱御跡ニ付帰宿仕候、少御用御座候而昼時分ニ致登城、頓而退出仕候

同廿一日

相公様今朝五前ニ養珠寺へ御参詣被遊、それヲ妹背山へも御参詣被為成、又養珠寺へ被為入候、今日ハ養珠寺御膳上ケ被申候、如例服被遣候、御供衆中何れも如例振廻被申候、四過ニ御城へ被為入候、拙者儀今朝日出時分ニ御先へ致伺公御跡ヲ帰宿仕候

同廿二日

相公様今朝御鷹野ニ御出被為成候、拙者共今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候

一 今晩斎藤源藏方へ権五郎召連振廻ニ参、夜ニ入帰宿仕候、

源藏方へ参候節、真鍋五郎右方へ頃日男子誕生ニ付為祝儀
参候

同廿三日

相公様今朝四前ニ御城外へ被為成、七前ニ御城へ被為入候

一 先日致拝領候御鷹之菱喰、今朝ひらき頂戴仕候、渋谷角右、

小出権太、津田治兵、志賀弥三左、久野八郎兵、卜齋など

申請候、岡野平太其外一門之衆勝手へ被参候

一 正木五郎右衛門氣色大形本腹仕、今朝始而登城、首尾能致

御目見過分忝仕合ニ而、御手ほそなど拝領仕候

同廿四日 時々小雨、七過り雨

相公様今朝五時分ニ大智寺へ御参詣被遊、夫より要行寺へ御

参詣被為成、四前ニ御城へ被為入候、拙者共今朝御先へ罷

出、御跡ニ帰宿仕候

一 昼前ニ拙者儀致登城、昨日正木五郎右衛門病後始而御目見

仕候処ニ、過分忝仕合之御礼、又頃日正木郷右衛門義、御

馬方之儀肝煎候様ニと被仰付候御礼、志賀弥三左へ申達候

処ニ、早速達御耳候由、其以後帯刀五郎左衛門拙者致御目

見、しハし御前ニ罷有退出仕候

同廿五日 終日大雨、夜中同断

今朝四前ニ致登城、頓而致御目見、しハし御前ニ罷有、昼
前ニ帰宿仕候

一 今朝早天ニ蓮心寺へ致参詣、追付帰宿仕候

同廿六日 終日曇

相公様今朝五過ニ当地御発駕被遊、岩手御昼休、粉川御泊

也、拙者儀今朝六半時分ニ致登城、御発駕目出度奉存之旨

御用人衆迄申達、扱五郎左致同道岩手迄御先へ致伺公、御

船ニ被為召候所ニ而首尾能御目見仕、過分忝御意ニ而罷戻

り候

一 弥御機嫌能粉川へ御着座被遊候哉と御用人衆迄、以飛札生

肴一種差上申候

同廿七日

同廿八日

今日始而権五郎致同道鷹場へ参候、今朝七時分ニ宿罷出候、

権五郎八日出時分ニ宿罷出、きれにて追付申候、長田権十

も被参候、永庵も参候

同廿九日

今日も鷹場ニ逗留

同晦日

今晚夜ニ入、五前ニ鷹場を罷帰候、権五郎をハ伊太木曾と先へかへし申候、今度鷹野之仕合上々ニ而帰宿、真鴨二つあわせ申候、斎藤源藏、鵜飼海安、今朝見廻ニ被参候、的場九左も晩方被参候、何れも同道ニ而帰宿

閏二月朔日

今朝五時分ニ表へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申候、当月ハ拙者当番也

同二日 八過り小雨

土藏之前之紅梅、先月廿五日時分をそろくひらき昨今盛
一土藏之内ニ今早天ニ御天神奉掛候

一今朝六半時分ニ宿罷出、坂田へ致参詣、五半時分ニ帰宿仕候

一今日叡山と坂田と了法寺之住持和歌へ到着、就夫大悦仕らせ、
今晚雲蓋院へ為使者秋田伊右衛門遣し候

同三日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四時分ニ帰宿

一昼時分ニ雲蓋院と円成院被差越候、昨晚使者進候儀御満足

之由、就夫了法寺之住持我等障次第、私宅へ雲蓋院可有御

同道由、了法寺へ入院之儀ハ追而吉日次第との義也、此段被入御念忝存候、了法寺ノ住持私宅へ被参候儀ハ、何時成共勝手次第ニ而御座候、雲蓋院御同道之儀ハ憚入候間、必御無用ニ可被成候、御内衆一人案内ニ御添可被下候、併了法寺へ入院以後私宅へハ被参可然候ハん哉、左様之作法不存候間、とかく雲蓋院御差図次第ニ御座候由、御返答仕候

同四日

先日鷹場へ参取セ候、真鴨二つ、其外網鳥など料理いたし、
今晚五郎左殿、佐五右殿、其外一門之衆振廻申候、五郎左故佐五右殿ハ暮合ニ帰被申候、残ル衆ハ夜ノ五過ニ帰被申候

同五日

今晚権五郎部屋ニ而当年始而食給候、権十被参候、長齋、
永庵、庄三郎も参候

同六日

少用所ニ而昼過ニ宇治屋敷へ参、食給権十など寄合咄申候、
然所ニ七時分ニ大智寺之近所車坂之下道心寺と火事出来之由、就夫早々帰宿仕候処ニ、右小寺一軒焼失ニ而、早速火

しつまり申候、大智寺へ為見廻使者差越候

同七日

今日坂田了法寺之住持、和歌云雲蓋院御同道ニ而了法寺へ入院、則住持へ岡七郎兵衛為使者一種兩樽遣候、今日入院目出度令満足候、態為祝儀進候との儀也、雲蓋院へも今日御同道忝奉存候、拙者も罷出可得御意候へ共、未住持へ対面不仕候間、先致延引候由申進候

同八日

今日坂田了法寺之住持、私宅へ被参候ニ付、雲蓋院御同道也、就者幸と存今晚振廻申候、八時分ニ御出、七半過ニ御帰候、了法寺、円成院、玉泉院、和合院、宝蔵院、利正坊御同道也、向日了二、成田庄次見廻被申候

一書院之庭糸桜盛ニ候故、今晚雲蓋院御立以後、勝手衆寄合花見いたし候、布施庄三郎も今日迄逗留、今晚京都へ之暇乞いたし遣候

同九日

今度了法寺之住持被致入院候ニ付、為祝儀今朝雲蓋院へ緒方清大夫為使者二種兩樽進申候、円成院へらうそく式百挺利正坊へ銀子壹枚右使者ニ遣し申候

一今度了法寺之法儀改、拙者も改宗仕候段日門様被達御耳候

段冥加至極奉存候、将又了法寺之住持首尾能入院大慶仕候、偏御影故と忝存候、就夫一昨日坂田へ御越、昨日私宅へも御出、是又忝存候、旁為礼今朝四時分ニ宿罷出、雲蓋院へ参、則罷帰候戻りニ貫休、為見廻加納角兵所へ立寄、昼前ニ帰宿仕候

同十日

七時分終夜雨

同十一日

昼時分迄雨、又暮合雨ふる

今朝五前ニ寄合場へ罷出、昼前ニ帰宿仕候

一今度了法寺之住持入院ニ付、八時分ニ見廻候而七過ニ帰宿但時服一重持参

同十二日

七前雨、夜半過大風大雨

今昼時分ニ宇治屋敷へ参候、戻りニ鵜飼海安老へ立寄、糸桜見申候処ニ振廻ニ逢、日くれ合ニ帰宿

同十三日

同十四日

今晚太郎八方宇右、海安、数寄屋ニ而振廻申候、八時分ニ被参、夜ノ四時分ニ帰被申候、権十も勝手へ被参候、長齋、永庵、次兵衛、七右衛門よび申候

同十五日

今朝五時分ニ表へ罷出見廻衆ニ逢、扱奉行衆被參御用御座候而、昼前ニ障明申候、八過ニ帶刀奥へ見廻、それゝ宇治屋敷へ參、戻りニ宇右衛門所へ寄、暮合ニ帰宿

同十六日

今朝宇治屋敷へ參、日暮合ニ帰宿

同十七日

今朝六半時分ニ宿罷出、和歌へ致伺公、五半時分ニ帰宿仕候

一宰相様道中御機嫌能、去ル十日江戸へ御着被遊候旨宰相様衆へ申来候由、正木五郎右衛門申聞候

同十八日

今晚一門之衆又ハ不斷出入被申候衆呼候而、宇治屋敷之花如例見セ申候、福岡太郎八方内々右之花聞及候間、被參度由ニ付見セ申候、加五郎左殿ないつも見セ申候故、申越候へ共不叶、先納有之由ニ而不被參候、右何れも昼過ゝ被參、夜ニ入五前ニ帰被申候

同十九日

津村有閑頃日爰元へ被參候ニ付、今朝中野栄雲相客ニて振

廻申候、人すくなニも候故茶湯ニいたし候、内々栄雲ニ茶

之湯出し度存候処、幸と存旁右之通也、それゝ又書院ニて語、昼前ニ帰被申候、勝手へ權十斗呼申候

同廿日

今朝六半時分ニ宿罷出、和歌へ致伺公、それゝ坂田へ參、逆修之石塔場地形いたさせ、昼前ニ帰宿仕候

一八時分ニ宇治屋敷へ參、暮合ニ帰宿

一生田次郎左衛門為替今朝江戸へ佐谷平左衛門指越申候

同廿一日

今朝六半時分ニ宿罷出、養珠寺妹背山へ致伺公、それゝ昨日之通坂田へ參、昼過ニ帰宿仕候

同廿二日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四時分ニ帰宿仕候

同廿三日

今晚木村吉兵振廻申候、兵法をも見申、權五郎ニもつかわセ申候、昼過ニ被參、七過ニ帰被申候

同廿四日

今朝日出時分ニ宿罷出、大智寺へ伺公仕、それゝ要行寺へ致參詣、五前ニ帰宿仕、扱五半時分ニ宿罷出、坂田へ參頃

日之普請場申付、七過ニ帰宿仕候

同廿五日 昼過る雨

帶刀女共平産之由、今朝日出前ニ申来候ニ付、追付帶刀所へ参候、五半時分ニ女共見廻候ニ付、我等ハ帰宿、又七過ニ見廻候而日暮ニ帰宿、但御用御座候而加納五郎三郎江戸を被参、奉行衆同道ニ而私宅ニ相待被有之候と申来候故、右之通帰宿仕候、今朝も帶刀所ニ家老之もの替へ付置

一今朝蓮心寺へ為代参鈴木弥五左衛門遣し申候

同廿六日 終日雨、夜半時分も雨風

今朝五過ニ帶刀奥へ見廻、昼前ニ帰宿、但江戸も加納五郎三郎御使ニ参、奉行衆同道にて今朝帶刀所へ寄合、しハし御用達申候

一小笠原与左衛門近日江戸へ罷下ニ付、帶刀所も直ニ与左所へ暇乞ニ見廻申候

一蔭山宇右衛門明日熊野之湯へ湯治仕候ニ付、今八過ニ宇右衛門同道ニ而岡野平太留守見廻申候

一七半時分ニ帶刀奥へ見廻候而、夜ニ入五時分ニ帰宿

同廿七日 八時分迄雨

今朝四前ニ帶刀奥へ見廻、昼前ニ帰宿

一七時分ニ用所候而宇治屋敷へ参、それも帶刀奥へ見廻、日暮候而帰宿

同廿八日

今朝四前ニ帶刀奥へ見廻、昼前ニ帰宿、又七過ニ見舞、暮合ニ帰宿

一今日小笠原与左衛門当地発足江戸へ参候、蔭山宇右衛門も今日熊野へ参候

同廿九日

今朝五過ニ帶刀奥へ見廻、四時分ニ帰宿、又七過ニ見廻、暮合ニ帰宿

三月朔日

今朝五半時分ニ帶刀所へ参候、御用も御座候而五郎左奉行衆熊野へ被参候、御目付衆川北安左、伊達半左など寄合、しハし御用相達、昼前ニ帰宿仕候、当月ハ帶刀当番也

同二日 晴天、いかにも長閑也

今朝日出時分ニ宿罷出、坂田へ致参詣候、今日ハ了法寺始而振廻被申候、了二、庄次、海安、権十、角兵相客也、和

歌₅円成院、玉仙院被參取持也、食過時分ニ雲蓋院御出也

一逆修之石塔今朝立申候、場所未首尾不仕候へとも、今日之儀ニ候故、右之通也、則雲蓋院御覽候而一段様子能由御ほめ候、其外いづれも見被申候

一右石塔御覽候上、御堂之ゑんかわへ盃台出後段も出、酒盛うたひまい御座候、永庵、次兵衛、七右衛門も參候、大酒ニ而八時分ニ帰宿申候

一七半過ニ帶刀奥へ見廻、日暮候而帰宿、今日始而行水いたし候由、弥氣色も能候由

同三日 終日曇、時々小雨

今朝六半時分ニ表へ罷出、見廻衆ニ逢申、五時分ニ致登城追付帰宿仕候、扱帶刀所へ參、娘七夜之祝ノ振廻ニ逢申候、五郎左殿、佐五右殿相客也、海安も被參候

一右振廻前ニ我等儀奥へ通り、今度生れ候娘之名おいと付申候、しや光院も其座ニ被居候、前方しや光院へ名を付被申候様ニと色々申候へ共、達而辭退故、右之通也

一表ニ而大酒御座候而給酔、昼前ニ帰宿仕候

同四日 八過₅雨、夜中大雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、戻リニ帶刀奥へ見廻、四時分ニ

帰宿仕候

一雲蓋院今日始而了法寺へ振廻ニ御出候、就夫了法寺へ秋田伊右衛門為使ひき茶并兩種遣し申候

一昨日ハ帶刀所之祝旁ニ付障入候故、今日娘共呼申候、如例居間ニ而ふるまい祝申候

同五日 昼時分迄雨

今朝四過ニ帶刀奥へ見廻、昼前ニ帰宿仕候

同六日

今朝五半時分ニ宿罷出坂田へ參、先日之普請場申付、七前ニ帰宿

一七過ニ帶刀内へ見廻、日入相前ニ帰宿

一暮合ニ布施佐五右、女手形持參被申判形仕候、其上しハし被致物語、日暮候而帰被申候

同七日

今朝も五過ニ宿罷出坂田へ參、昨日之通普請場申付、七前ニ帰宿

一今日ハ最早帶刀内へも見廻不申、弥五左衛門為使差越候

同八日

御用御座候而四時分ニ帶刀所へ寄合、昼過ニすぐニ宇治屋

敷へ参、八過ニ帰宿

同九日

昼時分ニ吹上下屋敷へ参、瓜畑なと申付、日入相前ニ帰宿

同十日

今度之為祝儀今晚帶刀方振廻申候、加五郎左殿、布施佐五右殿、畔柄五郎右殿、玄叔なと相客也、八時分ニ被参、夜之五時分ニ帰被申候

同十一日 八時分より雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、それより芦川十休気色見廻ニ参、それより帶刀内へ見廻、昼前ニ帰宿

一昼時分ニ宿罷出坂田へ参、頃日之普請場申付、七半時分ニ帰宿

同十二日

同十三日

今朝夜明前ニ宿罷出鷹場へ参候、権五郎同道仕候、貫休、権十被参候、永庵も参候

同十四日

今晚夜ニ入六半時分ニ帰宿仕候、鷹場ニもはや鴨ハ無之、長山あし池ニ鵜二つ有之候を昨今ニ一つ宛あわせ申候

同十五日

今朝五過ニ表へ罷出見廻衆ニ逢申、それより御用御座候而加五郎左寄合、昼時分ニ障明申候

一今晚七時分ニ帶刀内へ見廻、それより宇右衛門所へ寄、七半過ニ帰宿

一今晚夜ニ入、宇右、海安、権十、貫休、角兵呼候而、今度之鷹之鶴料理いたし候、長斎、永庵も呼候、太左衛門も見廻かゝり候、何れも緩々と咄、夜半過ニ帰被申候

同十六日

少御用有之ニ付、今朝四時分ニ昨日之通加五郎左私宅へ寄合、昼時分ニ障明申候

一大坂御陣之節、定環儀五郎左物語被申候、就夫養珠院様より定環ニ被成下候御書表具いたし置候を、初而五郎左衛門ニおかませ候、殊外悦拝見申候

同十七日

今朝晩より雨、昼過より大風雨、但夜ノ五過ニ風ハ止申候、雨ハ其後もふる

今朝六半前ニ宿罷出、和歌へ致伺公、大師堂へも参詣仕、雲蓋院へ参しハし語候而、それより養珠寺へ見廻申候、是ハ先日私宅へ御出候礼也、留守故申置、それより坂田へ参、頃日之普請場見申、路次あしき所となをさせ候而、四半時

分ニ帰宿仕候

同十八日 夜半時分迄雨

今晩了法寺へ宇右衛門、真鍋五郎右衛門、源右衛門ふるま
い被申候由

同十九日 今朝曉雷、其後少雨、夜明晴天

今晩奥津十右を私宅ニ而振廻申候、八時分ニ被參、日暮合
ニ帰被申候、宇右衛門、海安相客也、勝手へ長齋斗參候

同廿日

今朝六半前ニ宿罷出、和歌へ致伺公、それ右直ニ坂田へ參、
此中之普請場見候而四時分ニ帰宿仕候、右之普請今日大方
出来申候

同廿一日

一八時分ニ帶刀内へ見廻、それ右宇治屋敷へ參、七過ニ帰宿
今朝六半前ニ宿罷出、養珠寺妹背山へ致伺公、戻リニ少用
所候而加五郎左へ寄、五半時分ニ帰宿仕候

同廿二日 終日雨、昼過右大風雨、夜中同断

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四時分ニ帰宿仕候

一昼時分ニ殿様右為御使福岡太郎八私宅へ被參候、今度帶刀
女共平産仕候段達御聞、過分忝御意之段被申聞候、就夫追

付為御礼太郎八方へ參候、留守故申置候

一日暮合ニ相公様右右之通之御意ニ而下条伊兵衛被成下候、
則其為御礼菅沼半兵へ參、追付帰宿仕候

同廿三日 朝五前ニ小雨、又七過ニ小雨

今昼時分雲蓋院了法寺へ御出、拙者逆修之石塔開眼被成被
下候、円成院利正坊御連候

一古仏之釈迦今日本堂へ御なをし候、是ニ付候而も法事御修
行之由

一右之儀ニ付坂田へ為使緒方清大夫差越、不存寄仕合忝存候
旨申達、茶酒菓子等進申候、緩々と御入候而七時分ニ御帰
候由

一雲蓋院和歌へ御帰候節、為使者石橋孫左衛門を以、今日之
為祝義一種兩樽進申候、円成院へ銀子壹枚利正坊へ金子壹
分、是又為祝儀遣し申候

一了法寺へも今日之為祝儀矢部伊左衛門を以、一種遣申候

一逆修之石塔同場所之儀、緒方清大夫ニ申付候ニ付、為祝儀
羽織とらセ候、秋田伊右衛門も此頃毎度坂田へ通ひ候ニ付、
同羽織とらセ候

一八時分ニ水野平右方江戸右罷上り候由、御意之段も有之旨

被申越候ニ付、平右へ参、御意之段可承旨申遣、追付可罷哉と存候処ニはや帯刀所へ被参候由ニ付、拙者も帯刀所へ参、両殿様と忝御意之段御用等をも承、帰宿仕候、扱七過ニ右為御札平右へ参申置、罷帰候

一葛西蘭右衛門、去ル廿一日於京都千射仕候処ニ九百六十本通り候也、今七時分ニ申来

同廿四日

今朝六半前ニ宿罷出、大智寺へ致伺公、それと要行寺へ参詣仕、五前ニ帰宿仕候

一昨日水野平右衛門江戸と持参仕候御用之御書付共、今朝四時分ニ帯刀所へ何れも寄合拝見、それ／＼ニ申渡、昼前ニ帰宿仕候

一昼時分ニ宿罷出、坂田へ参詣仕候、昨日本堂へ御なをし候古仏之釈迦拝見、それと昨日之為札雲蓋院へ参候処ニ不取敢料理御出し候、其以後かこいにて茶給、七時分ニ帰宿仕候、向日了二、雲蓋院ニ右と御入候而はなし申候、何として今日当御寺へ御出候哉と相尋候へハ、天台智者大師御命日故参詣いたし候との儀也

同廿五日 朝五半時分ニ大雨、氷ふる雷、追付晴天

今朝六半前ニ蓮心寺へ致参詣、追付帰宿仕候

一日明只今迄之御位牌ちいさくそさうニ候とて、今度蓮心寺京都へ上り被申候、次而ニ調被参候由ニ而御位牌立かへ被申候、今日始而拝見仕候ニ付、帰宿以後大多和治右衛門を以銀子壹枚御はいせへ差上申候

同廿六日

今度水野平右衛門ニ被仰下候御用之儀ニ付、今朝四時分ニ帯刀五郎左奉行衆三人私宅へ寄合申候、伊藤又兵も後ニ被参候、何れも昼前ニ帰被申候

同廿七日 暮前と雨、夜中大雨

帯刀所ニ而今度誕生之娘今日致宮参、それと我等所へ立寄候、四前ニ参昼前ニ帰申候、態祝儀ニおいよニ巻物二巻遣候、つほねニ百疋取セ候、右何れも直ニ我等所ニ而

一帰候以後帯刀方へ樽肴、同内へも柳樽一荷二種遣申候

一其以後帯刀方と右為祝儀樽肴被指越候

一昼過ニ吹上下屋敷へ参、はいたかニいけ物など取かい申候

同廿八日 終日雨

今朝五過ニ表へ罷出、見廻衆ニ逢申候

一帯刀女共平座、以後今日始而私宅へ参候ニ付、子共何れも

寄合祝申候

同廿九日 昼前迄雨

昼時分ニ吹上下屋敷へ参、日暮合ニ帰宿

同晦日

今日帰りニ鷹場へ参候、今朝夜明前ニ罷出、日暮前ニ帰宿、
鷗二つよしごい一つ取セ参候、貫休、権十も被参候、長斎
も参候

一今朝鳴武宮初而見物仕候

四月朔日 昼前ら雨、夜中大雨

今朝五時分ニ表へ罷出、見廻衆ニ逢申候、当月ハ拙者当番
也

同二日 朝少々小雨

今朝日出時分ニ罷出、坂田へ致参詣、五過ニ帰宿仕候
一今晚了法寺を振廻申候、宇右、海安、権中相客也、八前ニ
被参、七過ニ何れも帰被申候

同三日 晚方少雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四時分ニ帰宿仕候

一広瀬口御門脇之石垣つきなをし井吹上水道今日吉日故、御

普請始有

一今日緒方清大夫儀旗奉行ニ申付、加増取セ候

同四日

今晩五郎左殿、貫休、角兵、宇右、海安、権十振廻、先日
之鷹之鷗料理仕候、何れも八前ら被参候、五郎左殿ハ七過
ニ帰被申候、角兵ハ御普請之義ニ付障入故暮合ニ被帰候、
其外ハ夜ノ四時分迄語被申候

同五日

昼過ニ小笠原与左留守見廻ニ参、それら宇治屋敷へ参、そ
れら帯刀内へ見廻候処ニ今日ハ中屋敷へ参、留守故則帰申
候

同六日

田宮太郎左方昨晚江戸ら被罷登候、就夫相公様御意之段御
座候由ニ而、今朝四過ニ私宅へ被参被申聞候ハ、大殿様相
公様御機嫌弥よく被成御座候間、目出度可奉存之旨、次ニ
拙者式無事ニ罷有之由、達御聞御機嫌ニ被思召之旨、扱又
芦川十休相煩候由、養生無油断仕候様ニと被思召候由被申
聞候、就夫昼時分ニ十休所へ参、右御意之段申聞、それら
直ニ吹上下屋敷へ参、七半時分ニ帰宿仕候

一 今晩了法寺へ家来之者十人斗振廻、但旦那分之者共也

同七日 昼過り時々雨

今晚も昨日之通了法寺へ家来之者十人斗振廻

同八日

広瀬口御門脇石垣つきなをし之御普請見廻りニ今昼時分ニ罷出、それら加五郎左上屋敷ニ被居候ニ付立寄、逢候而頓而帰宿仕候

一 今晚飯嶋五郎右私宅へ被参候、私等知行所紀州勢州むら無之様ニとの儀内談仕候、加五郎左へハ去ル四日私宅ニ而申談候

同九日 終日雨

江戸と畔田半右名付ニ而状箱今昼過ニ到着、就夫七時分ニ加五郎左私宅へ寄合、暮合ニ帰被申候

同十日 朝五時分迄小雨

昨日之儀ニ付、今朝四時分ニ加五郎左私宅へ寄合、江戸へ之状認越申候

同十一日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四過ニ帰宿仕候、昼時分ニ江戸と書状到来、其儀ニ付五郎左、五郎右私宅へ寄合、則返状

認江戸へ差越申候

一 八時分ニ帯刀方へ以使申候ハ、今朝寄合場へ伊藤又兵被罷出被申候ハ、明日御普請場を見候様ニとの儀ニ候間、明日時分ニ罷出、先広瀬口御門石垣御普請見申、それら塩道へ参、吹上之水道筋見可申と存候、為其以使申候と申越候、帯刀方返事ニ明日御普請場へ御出候儀、被入御念御申聞忝存候、如何様懸御目可申由也

一 重而帯刀方と使口上ハ、先刻ハ御使忝存候、明日御普請場へ御出候由、拙者儀ハ用所御坐候間、御先へか跡ニか可参候、御一所ニ参可然思召候ハ、可被仰下候由返事ニ御使之通得其意申候、明日ハ御用候間、御普請場へ御出候義、先へか跡ニか御出可有由、令得其意候、御勝手次第ニ御出尤候、御普請場見申儀ハ、明日斗ニハ限間敷候間、いつニ而も互ニ勝手次第ニ罷出見可申由申越候

同十二日 終日曇、夜中雨

今朝五半時分ニ罷出、広瀬口御門脇之石垣御普請見申、それら塩道へ参、吹上水道見候而四過ニ帰宿仕候、加納五郎左、伊藤又兵、奉行衆同道也、帯刀ハ用所有之由ニ而其以後罷出候由

一今朝坂田了法寺始而帶刀方五郎左方へ被參候、雲蓋院と和合院案内ニ御そへ候

同十三日 朝五時分迄雨

昼時分ニ罷出大崎三左へ見廻、それより宇治屋敷ニ而致支度、当年始而磯脇へ參、暮合ニ帰宿

一大七郎様より今度御部屋御移從被遊候、御祝義と御意被成、三浦小八郎を以御肴一種拝領仕候、拙者磯脇へ參候留守故御口上をハ不被申置候ニ付罷歸候と、則以使先刻御出候へ共、遠所へ罷越不得御意候、只今以来御口上可承由申遣候處、はや小八郎私宅へ被參、右御口上被申聞候ニ付、則為御札鈴木四郎兵へ參、追付帰宿仕候

一四郎兵へ參候内ニ奉行衆被參、今度御国廻り衆近日御分国御通之儀ニ付、相談被申候

一今朝石原六兵衛普請奉行ニ申付、加増取セ候、柴山藤兵衛足輕頭ニ申付、是又加増取セ候

同十四日

今度御国廻り衆之内、川口源兵衛殿、藤堂庄兵衛殿、堀八郎右衛門殿、此御三人ハ五畿内当国なと御順見候ニ付、和州奈良辺迄御越、近日当国御通り之由申來候ニ付、何れも

相談之上御留守ニ罷有候者共之方より為使佐野弥七左衛門を鷲家迄指越申候、口上ハ今度為御国廻当国をも御通り被成候由御大儀ニ奉存候、何とぞ御馳走被申度義ニ御座候へ共、左様之段無用との義ニ御坐候故、万事不調法之仕合ニ御座候、自然御用等も御坐候ハ、被仰付候様ニと留守ニ罷有候者共申候由申越候、右之義為相談帶刀五郎左奉行衆、今朝五時分ニ私宅へ寄合申候、当番之御用人当番之御目付衆も呼申候、何れも四過ニ退出也

一勢州なと御廻り候衆ハ、溝口源右衛門殿、堀主膳殿、川勝孫四郎殿、此御三人之由

同十五日

今朝五時分ニ表へ罷出、見廻衆ニ逢申候

一雲蓋院より了法寺へ御申渡候ハ、明日和歌へ罷出、明後日迄何ぞ御役儀相勤候様ニ、又十八日より廿日迄之御法事をも相勤候様ニとの義、今日了法寺より被申聞候ニ付、則雲蓋院へ為使大多和治右衛門差越申候、口上ハ右之通了法寺へ被仰付候由、於拙者忝仕合奉存候、然共了法寺此以前之住持何れも御目見仕たる儀無御座候、今度宗門改候儀ニ御座候へハ、此度之住持をハ何とぞ御目見致させ度奉願候、然所ニ

只今右御法事ニ出し候義ハ如何可有御座候哉、万事か様之義ハ雲蓋院御指図次第之儀ニ御座候へ共、是ハ御目見をも不致内ニ右之仕合拙者遠慮可仕義ニ而も可有御坐哉と存申進候旨申達候へハ、尤之遠慮ニ而候、先以御帰国之上、了法寺御目見をも為致度と拙者存寄候段、雲蓋院ニも御満足ニ候、扱又右御法事之儀ハ雲蓋院御末寺之儀ニ候へハ、罷出候ハて不叶義ニ候、其上山門を被参候出家衆之内ニも不被致御目見衆も御坐候間、其衆同前之事ニ候、兎角雲蓋院御指図次第ニ仕候様ニと御返事ニ候故、任其意了法寺へも其段申越、万事雲蓋院御指図次第に被致候様ニと申遣候一飯嶋五郎右方へ佐谷勘兵衛為使遣、右之様子具ニ申越、か様ニ拙者遠慮仕候へ共、重而雲蓋院御指図ニ候間、任其意和歌へ了法寺出し可申候、左様先得給候様ニと申越候、五郎右返事ニ此儀内々雲蓋院私ニも被申聞候間、一段御尤之由あいさつ仕候、我等申越候遠慮之通尤ニハ候へ共、雲蓋院被仰候所致至極候間、とかく雲蓋院差図次第ニ尤之由返事也

同十六日 八時分より雨

同十七日 朝雨、又晩ニ雨ふる

今日之御祭礼天氣迄能、昼過ニ相済申候、其段則如例拙者共書狀認江戸へ申上候、今朝之御代参帶刀相勤申候、尤如例大もん着申候、昨日より今朝迄雨降、御祭礼も相延可申と奉存候処ニ、不思儀ニ天晴、右之通ニ御座候

一今日之御祭礼首尾能相済、日出度奉存之由雲蓋院へ以使者申達、八過ニ帰宿仕候と、則又雨ふり出し、晩方ハ風も吹申候、今朝ハ夜明候而罷出候

一雲蓋院御指図之通、了法寺昨日より和歌へ罷出、今日之御役儀をも無相違相勤被申候、雲蓋院之跡ニ円成院、大相院、玉仙院、了法寺、此四人ハ乗物也、若キ出家衆ハ何れも馬也

一今日之御祭礼権五郎、梅松ニも始而拝せ申候

同十八日 終日曇、八時分ニ雨

明後廿日大猷院様十七年御回忌ニ而御座候ニ付、今日より和歌於御靈屋御法事御坐候、如先年山門住吉より出家衆被参候、了法寺儀一昨日より直ニ和歌ニ相詰、今日より之御法事をも相勤候様ニと雲蓋院御申付、今日も首尾能御法事相勤被申候、今日ハ法華經一部御読誦、今朝四卷今昼四卷御読誦、拙者共今朝四前ニ和歌へ参、右昼四卷之御經相済候迄御靈屋ニ

罷有、昼過ニ帰宿仕候

一右之御経二巻過候而御名代之御焼香帶刀相勤、則罷帰候、のしめ長袴着申候、其外ハ何れものしめ半袴着申候

同十九日 朝きり雨、又暮前ニ少雨

今昼和歌於御靈屋之御法事法華八講也、一ノ座之講師論儀ノ題教寛傍正了法寺相勤被申候

一右御法事相済候而、御名代之御焼香帶刀相勤申候、昨日之通のしめ長袴着申候

一拙者儀今朝四前ニ和歌へ罷越、右御法事相済候迄罷有、昼過ニ帰宿仕候、昨日之通のしめ半袴着申候

同廿日

今日御緒願之御法事曼陀羅供今朝四前より始り、昼前ニ相済申候、御名代之御焼香帶刀相勤申候、但先年御法事之節、若狭守束帶ニ而相勤候由ニ而、今日も帶刀束帶ニ而相勤申候

一宰相様より之御名代菅沼半兵衛、左京様より之御名代鈴木四郎兵衛相勤申候、兩人ともニ布衣也

一御法事相済候而之以後何れも出家衆ニ御布施被下候、了法寺も三日之御法事、首尾能相勤御布施をも拝領仕候

一一昨十八日より之御法事首尾能、今日ハ一入天氣迄能相済候

段江戸へ之書状、則和合院ニ而認差越申候、それより雲蓋院へ参此度之御法事首尾能相済、可為御大慶由申達退出仕候、拙者儀今朝五過ニ和歌へ参候、此中之通のしめ半袴也、罷帰候節坂田へ立寄、八時分ニ帰宿仕候

一今度御国廻衆御通り候ニ付、先日驚家迄拙者共為使佐野弥七左指越候処ニ、昨十九日驚家にて首尾能相勤、今七過ニ私宅へ被参候御国廻衆一段能御あいさつニ而御座候由、取分川口源兵衛殿へ御領分万事結構ニも無之、又御心付候様子別而忝思召候、内々か様ニ可有之と思召候由、度々弥七左ニ御申候由

同廿一日 終日雨

今朝六半前ニ罷出、養珠寺妹背山へ伺公仕候

一宗譽寺ニ当月始より江湖つき、今日も法聞有之由ニ付、加五郎左申合、養珠寺より直ニ彼寺へ参法聞承、昼前ニ帰宿

一蓮教院、是ハ始メせんがくと申出家也、先日と和歌ニ而知人ニ成候ニ付、今八時分ニ私宅へ参、しハし咄申候

同廿二日

今朝五前ニ寄合場へ罷出候、御用も無御座、四前ニ帰宿仕

候

一今日ハ先勘助三十三年忌ニ相当候ニ付、今朝了法寺へ参詣

仕度存候へ共、寄合故無其儀為名代大多和治右衛門指越、

香奠銀子壹枚遣候

一昼時分ニ帯刀内へ見廻、それら宇治屋しきへ参、帰ニ宇右

衛門所へ立寄、七前ニ帰宿

同廿三日

御国廻衆近日当地御通り可有由、今晚ハ慈尊院か大津ニ御

泊之由、就夫懸御目次第沓岐半左衛門を我等共使ニいたし

指越候、口上ハ先日驚家と申所迄以使者申達候処ニ御懇ニ

御返事被仰聞忝存候、弥御堅固ニ而近日此辺御通り被成候

由、珍重奉存候、先日申達候通何之御馳走も無御座無調

法之仕合ニ御座候、せめて何そ御用被仰付候様ニと奉存儀

ニ御座候、是ら四国辺へ御渡海之様ニも及承候、左様ニも

御座候ハ、御舟などの儀被仰付被下候様ニと留守ニ罷有

候者共申候由可申達旨申渡候、右之儀ニ付今朝四時分ニ帯

刀、五郎左、奉行衆、当番之御用達衆、同御目付衆など私

宅へ寄合、昼前ニ何れも退出被申候

一昼過ニ宇治屋敷へ参候海安、貫休、権十など被参候、長斎、

永庵も参候、暮合ニ帰宿

同廿四日

今朝六半前ニ罷出大智寺へ致伺公、それら要行寺へ参詣仕、

五前ニ帰宿仕候

一御国廻衆川口源兵衛殿、藤堂庄兵衛殿、堀八郎右衛門殿、

夜前天野ニ御泊今朝慈尊院ら舟ニ而御下り、今八過ニ宇治

渡場ら御上り候、就夫帯刀拙者右之所迄罷出懸御目申候ハ、

御国廻御大儀ニ存候、か様ニ当地御通被成候へとも、最前

ら申達候通、何之御馳走も不申無調法之仕合ニ御座候、何

ニ而も御用之儀御座候ハ、無御心置被仰付候様ニと申候

へハ、今度路次迄も度々以使者申達、又候哉是迄私等共罷

出候段重々御満足之由、何ニ而も御用之義候ハ、其所々

之者ニ可被仰付候間、左様相心得候様ニとの御あいさつ也、

扱又今晚之御泊程近ニも御座候間、拙者共御見廻可申儀ニ

御座候へとも、結局如何と遠慮仕らせ申候へハ、我等共参

候儀ハ不及申、使者進候儀も必無用と被仰候、それニ付今

晩之御泊へ使者をも指越不申候

一右渡場ら畳屋町へ御上り、本町通り三木町へ御懸り和歌へ

御越、紀三井寺ニ御一宿也、右御通り之節京橋前へ御城代

衆、大組衆、番頭衆、奉行衆被罷出候

同廿五日 夜中雨

御国廻衆今朝辰之刻紀三井寺御立候由、今晚ハ湯浅御泊之由

一今晚蓮心寺へ為代参大多和治右衛門遣候

同廿六日 終日風吹、時々小雨

同廿七日 終日風吹

昼時分ニ宇治屋敷へ参、八時分ニ帰宿

同廿八日 終日風吹、七過五雨、夜中も雨

今朝五時分ニ表へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申候、加五郎左も被参、しハし咄申候

同廿九日 時々小雨

今晚同名勘三郎祝言、就夫日暮前ニ見廻、六半過ニ帰宿

同晦日

来月ハ嫁娶之儀不致由ニ而夜前勘三郎駕入しうと入も相濟候、就夫明日三つめニ相当候へ共取越、今朝勘三郎へ為祝儀以石橋市左衛門一種一荷遣候、同内儀へも右同断、勘三老母同おば、へ肴一種つ、遣候、戸田藤左へも右為祝義肴一種遣候、使石井亀右衛門

一今朝四過ニ宇治屋敷へ参、今日娘長屋へ移從申付候

一芦川十休、一昨晚持病之虫指発候由、就夫宇治屋敷ニ直ニ十休へ見廻、八前ニ帰宿

一今日石橋市左衛門ニ加増取セ候

五月朔日 終日雨

今朝五時分ニ表へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申候、当月ハ帶刀当番也

同二日 朝つよき雨、昼時分迄

今朝日出時分ニ了法寺へ参詣仕候、今度新敷出来申候、日健之御位牌今朝奉拝見候

一日正御影今度新敷出来候、御ずしへ被為入候御様子、是又今朝奉拝見候

一右之通有之ニ付、今朝ハ了法寺へ則寺ニ而齋を申候、宇右衛門、海安、貫休、権十、源右衛門など相伴也、長齋、永庵も参候、緩々と咄候而昼過ニ帰宿仕候

一当春京都へ千射ニ参候、射手衆昨晚帰候由ニ而、今日何れも私宅へも参候、右留守故逢不申候

同三日 夏至、時々小雨

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四前ニ帰宿仕候

一子共今日のぼり立申候、昼時分ニ用所候而宇治屋敷へ参、
八時分ニ帰宿

同四日 昼前迄雨、其後も時々小雨

今朝四過ニ伊達了念、加納五郎左同道ニて私宅へ被参、目
出度咄いたされ、頓而帰被申候

同五日

今朝六半時分ニ表へ罷出、何れも見廻衆ニ逢申、それより五
時分ニ登城仕候

一渡部六郎左衛門儀、御旗奉行ニ被仰付之旨江戸より申来候ニ
付、今日於御城申渡候

一今度浦々御廻候衆之内坂井八郎左衛門殿、伴作平殿、熊野
浦御廻り、近日爰元御通之由、就夫懸御目次第里見勘四郎
拙者共為使指越候、今日御城ニ而帶刀申渡候口上ハ、今度
浦々為御廻当国をも御通被成之由、御大儀奉存候、何とそ
御馳走被申度義ニ御坐候へ共、左様之段無用との義ニ御座
候ニ付、万事不調法之仕合ニ御座候、近日爰元をも御通被
成候由、自然御用等も御座候ハ、被仰付候様ニと留守ニ
罷有候者共申候由申越候

一今日如例娘共私宅へ参祝申候

同六日

同七日 時々小雨

我等知行所之米代官飯村弥左衛門、小林与次右衛門、手前
より当町左助と申米屋数年買候処ニ、其代銀何と不相濟候ニ
付、今日奉行衆町奉行衆へ為使小林佐次兵衛を指越、右段々
の様子申越候、加五郎左殿へハ先日有増致物語、今日も又
右両所へ不申越、以前ニ佐次兵衛を以具ニ申候、右左助請
人ハ和歌七大夫、同七大夫子五兵衛と申者也、左助も七大
夫二番めノ子也、扱又右代官共之儀ハ勿論、それよりも倉
田太郎右衛門万事かたりいたし盗人科人也、就夫昨日よりご
うもんいたし種々相尋候也

同八日

八時分ニ宇治屋敷へ参候、其次而ニ当節句ニ水野平方方、
渡部一学方私宅へ被参候ニ付、其礼かへしニ見廻、七時分
ニ帰宿

一今朝宇治へ壺指越申候、使後藤勘大夫

同九日 時々小雨、夜中雨

同十日

頃日岡野平太内方おこり煩被申候ニ付、昼時分ニ見廻、それち長田権十腫物見廻、それち塩道へ罷出、吹上水道之御普請見廻り下屋敷へ参候、右御普請場ニ而加納角兵ニ逢申候、権十気色も能候而、跡ち下屋敷へ被参、緩々と語、七半時分ニ帰宿、長斎、永庵も参候

同十一日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四前ニ帰宿仕候

一熊野銅山ち寒水石出候由ニ而、寄合場ニ而奉行衆見セ被申候

一那賀郡かすが池うでび之きわにて銀山之つる石見出候由ニ而、是又奉行衆見セ被申候

一新町村木屋彦三郎と申者、親之代ち持伝候とて、一間二尺ほとこの古丸木を町奉行衆見セ被申候、誰も見知たる者無之由、御作事奉行衆鴨居善兵衛など見候而御用にも立ましき物之由申候由、木主も何とも名不知由、但金五十両程可仕哉と申伝候由、右之通御用ニも立ましき木ニ候ハ、持主心次第ニ致させ、尤之由何れもあいさつ仕候

一加納五郎左殿上屋敷之作事大方出来、今日吉日故昼前ニ被致移徙候、就夫金兵衛を以五郎左并内儀へも肴一種つ、遣

申候

一浦御廻衆、坂井八郎左衛門殿、伴作平殿へ懸御目次第、里見勘四郎先日遣候処ニ、江田ニ而参会、先日帯刀申渡候口上之通申達候処ニ、何れも念入候段御満足之由、其外所々ニ而万事無滞是又御満足之由くれく御申候由、今晚勘四郎罷帰申聞候

同十二日 八時分ニ少雨

晩方長谷川勘八方女手形認持参被申候ニ付、判形いたし候

同十三日

去冬拙者改宗以後、雲蓋院へ血脈被下候様ニと折々申候へ共、何かと御申のべ候、其様子ハ昆門主より被下候様ニ可被成との様子ニ候故、私其望無御座候、鬼角貴僧ち申請度由、以了法寺達而申候ニ付、昨晚血脈了法寺迄御越候由ニ而、今日了法寺持参被申候、則いた、き納申候、此為礼早速雲蓋院へ可参候へ共、浦御廻衆今日ニも当地御通可有哉との義ニ御座候間、延引可仕候、尤以使者成とも御礼可申候へ共、昨日も此義ニ付使者進候、度々御六ヶ敷可有之、とかく拙者以参御礼可申候間、右延引之段能様ニ御心得候様にと御返事之段了法寺へ申渡候

一今日ハ古帶刀殿三十三年忌ニ担当、宗賢寺にても法事有之ニ付、為代參小林佐次兵衛指越、香奠銀子貳枚遣申候、追付帶刀方より右為礼使被指越候

同十四日

浦御廻衆坂井八郎左衛門殿、伴作平殿、昨晚塩津ニ御一宿候而、今朝紀三井寺へ御越、それより和歌御通り舟ニ而松江へ御越、彼地ニ而昼御休、扱加太御通り、今晚ハ泉州谷川ニ御泊之由、今天早上ニ相聞候ニ付、五時分ニ帶刀所へ寄合相談仕、和歌へ如先日拙者共方右佐野小平次遣申候、口上ハ堅固ニ而浦々御廻り、今日其元御通り被成之由珍重と存候、此地御通被成候ハ、罷出可懸御目と存候処ニ、其地右直ニ御通り被成之由ニ付不能、其儀ハ其地へ罷出可得御意候へ共、其段結局如何と延引仕候、此度ハ何之御馳走も無御座無調法成儀ニ御座候由申越候処ニ、念入候通御満足之御領分浦々ニ而万事念入申付候と相見へ候由御申越候一右之通当地御通り候ハ、最前御国廻衆御通之節罷出候通ニ吹上り湊辺へ可罷出と存候へ共、和歌右直ニ松江へ御通り候ニ付、帶刀所より宇治屋敷へ參、昼前ニ帰宿仕候一右之御衆和歌御出船候而松江へ御越候を承、昨日之為礼八

過ニ罷出、雲蓋院へ參候時服三之内単物へ一種一荷為祝儀持參仕候、雲蓋院対面ニ而盃出、しハし咄候而七過ニ退出歸ニ長田権十腫物見廻、それ右加納五郎左上屋敷へ移徙、以後始而見廻、日ノ入相ニ帰宿

同十五日

今朝五前ニ表へ罷出、見廻衆ニ逢申候一四過ニ戸田藤左、飯嶋五郎右、九鬼半右同道ニ而被參候、昨日浦御廻衆松江ニ而御休候節、湊年寄共ニ被仰聞候通を半右我等ニ被申聞候、昨晚夜受候而半右私宅へ被參候ニ付、罷出逢可申と申候処ニ、兎角明日可參由ニ而被罷帰、今日右之通也、帶刀所へも同前之由一昼前ニ雲蓋院私宅へ御出候、是ハ昨日拙者參候ニ付而之御出也、追付御帰候

同十六日

昨日雲蓋院私宅へ御出ニ付、為礼今朝矢部伊左衛門差越候、昨日私宅ニ而瓜出し候へハ、始而之由御申候ニ付瓜進之候、円成院へも繙遣候、是ハ一昨日雲蓋院へ參候刻、本院之門外ニ而出合、万事首尾能有之旨申越候、了法寺へも今朝以使一種遣候、是も今度首尾能候而満足申候との祝儀也

一今朝布施佐五右右使ニ而袋茶并肴給候、口上ハ内々御呼可有との儀ニ候へ共、眼病未しかと無之ニ付、左候へハ余り延引ニ成候との儀也、此方も為礼亀右衛門ニ書状持せ差越候

一昨日もお長、彦兵衛少熱氣有之由ニ付、昼時分ニ見廻申候、兩人共ニ大方本復也

同十七日

今朝六半前ニ罷出、和歌へ致伺公、四前ニ帰宿戻リニ長田権十腫物見廻申候

一昼時分ニ了法寺常福寺を同道ニ而被参候、則逢申しはらく語申候

同十八日 八時分ニ少雨、少雷

今朝東白ミニ宿罷出、日帰りニ鷹場へ参、よしごい三つ、小ひはり一つ取せ、晩方しゆくがはなより下り舟ニ乗、豊屋町之はすれより上り、日暮前ニ帰宿、貫休、永庵同道也

同十九日 八時分ニ少雨

御用御座候而、今朝四時分ニ帯刀所へ寄合、昼前ニ帰宿仕候

同廿日

今朝六半前ニ罷出、和歌へ致伺公、五半時分ニ帰宿仕候、戻リニ長田権十腫物見廻申候

同廿一日

今朝六半前ニ罷出、養珠寺妹背山へ致伺公、五半時分ニ帰宿仕候、今朝も帰ニ長田権十腫物見廻申候

同廿二日

今朝五前ニ寄合場へ罷出、四時分ニ帰宿仕候

一先日布施佐五右右給候茶ひき候而、今晚同善五方振廻、右之茶給申候、福岡太郎八方鵜飼海安、蔭山宇右衛門呼申候、善五ハ用所候而暮候と則帰被申候、其外ハ五過迄語被申候

同廿三日 昼過ニ少々雨

同廿四日 夜半前ニ雨

今朝日出前ニ罷出、大智寺へ致伺公、夫より要行寺へ参詣仕、五過ニ帰宿仕候

同廿五日

今朝蓮心寺へ為名代大多和治右衛門遣候

一今晚雲蓋院私宅へ御出候、円成院、円寿院、明王院呼申候、尤了法寺も被参候、村上与兵先日和歌ニ而約束いたし被参候、此振廻ハ内々当春雲蓋院申請、茶進度存候つれとも、

一円不得手透延引申候、最早温氣ニ成候故、御出候様ニと
ハ難申候、扱又拙者壺ニ而ハ能茶少相残候間、進度念望ニ
ハ御座候由、致物語候へハ、是非可有御出由ニ付、右之通
也、今八前ニ御出候、書院ニ而御食可進と存候処ニ、達而
茶之湯ニいたし候様ニとの御断故、数寄屋ニて御食も進候、
扱書院へ御出候、拙者見苦敷所之庭ニ蘭を持申候、未花ハ
咲不申候得とも、可懸御目由申候而、居間へ御通り緩々と
御咄、夜ニ入五前ニ御帰候、勝手ニ宇右衛門、源藏、五郎
右衛門、勘三郎、海安居申候、舞々共参、一ふし舞仕候
一今日数寄屋ニ而之茶ハ、岸順初むかし居間ニてハ、春松初
むかし也

同廿六日

同廿七日

今度同名勘三郎祝言首尾能相済候、為祝儀今晚戸田藤左、
芦川甚五兵、飯嶋五郎右、蘭田兵十、淡輪新兵振廻申候、
尤勘三郎、五郎右衛門、源藏、早之助方呼申候、宇右衛門、
海安をも呼申候、何れも八前を被参、夜ノ四過迄語被申候、
舞なとまわセ申候

同廿八日

今朝五前ニ表へ罷出、見廻衆ニ逢申候

一昼時分ニ江戸を書状到来、帯刀私宅へ持参、五郎左も寄合
拝見申候、去ル廿二日為上使酒井雅楽頭殿、阿部豊後守殿
御出有之、御懇之上意ニ而数年御願之通御隠居之儀相済、
御家督宰相様へ御讓被成候様ニと被仰出、殿様不大形御大
悦之旨申来候、就夫頭立候衆被致登城候様ニと相触、八過
ニ御城へ罷上り帯刀何れもニ申渡候、それより又私宅へ寄合
江戸へ之返状認遣申候

同廿九日 夜ニ入五過ニ雨

今朝四前ニ罷出、宇右衛門内へ見廻、それより帯刀内へ見廻、
それより宇治屋敷へ参、七半時分ニ帰宿